

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成26年5月1日(2014.5.1)

【公開番号】特開2012-222490(P2012-222490A)

【公開日】平成24年11月12日(2012.11.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-047

【出願番号】特願2011-84365(P2011-84365)

【国際特許分類】

H 04 B 1/44 (2006.01)

【F I】

H 04 B 1/44

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月18日(2014.3.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

前記ハイブリッド回路としてウイルキンソン型ハイブリッド合成分配回路が知られるが、用いられる抵抗は耐圧が求められるので、小型の抵抗器を利用することができない問題がある。そこでハイブリッド回路としては、ブランチライン型ハイブリッド合成分配器や90度ハイブリッドカップラを用いる場合が多い。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

この様な平衡型増幅器を用いた高周波回路として、特許文献1の図6に示したアンテナスイッチ回路が開示されている。このアンテナスイッチ回路は、入力ポートが送信器125と接続された平衡型増幅器10と、平衡型増幅器10の出力ポートに接続されたS P D Tスイッチ回路127と、S P D Tスイッチ回路127と接続されたアンテナA N Tと、受信器126に接続された低雑音増幅器128を備えている。S P D Tスイッチ回路127によって、一つのアンテナA N Tと送信器125との間、アンテナA N Tと受信器126との間を切り換える。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

送信出力電力を高め、かつアンテナダイバシティが可能な高周波回路を得るには、単純には特許文献2の高周波回路において、増幅器を特許文献1に記載された平衡型増幅器を用いることが考えられる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

なお、固定局と移動局が近くにあって大きな送信出力電力が必要でない場合には、一方の増幅器を非動作状態としても良い。この場合、第1、第2ハイブリッド回路によって分配損失が発生するものの、増幅器による電力消費を抑えることができる。